第３回　流域下水道管の破損に起因する道路陥没事故に関する復旧工法検討委員会の概要について

委員長　森田 弘昭

○　はじめに、前回以降の工事の進捗状況について、県から報告があり、概ね順調に進んでいるとのことであった。

○　次に、前回の委員会での議論・助言等を踏まえて検討が進められた「破損した下水道管の復旧方法」について、県から説明がなされた。

○　下水道管が破損した区間に新たに設置する管と、破損していない区間の既設管との接合部分は特に注意が必要となるため、腐食対策の観点から材料や構造に関する留意点や、実際に施工する際の留意点等について、議論・助言等を行った。

○　次に、今後の抜本的な対策として、中央幹線下流部の劣化状況等を踏まえ、維持管理性やリダンダンシー確保の観点より、複線化を行っていく方針であることが、改めて県から説明がなされた。

○　また、この中央幹線下流部の複線化のルート検討の状況について県から説明がなされるとともに、一連区間の工事に概ね５～７年程度かかることが見込まれることなどについても県から説明がなされた。

○　早期の効果発現を図るための段階的な整備や、経済性の観点などを踏まえて、引き続き検討を進めていただきたい。

○　将来に向けた重要な検討事項であるため、委員会としても今後もしっかり議論・助言等を行ってまいりたい。